

<p>【技術の名称】 テコットパイルSR工法 ー先端翼付き鋼管を用いた杭状地盤補強工法ー (改定3)</p>	<p>性能証明番号 : GBRC 性能証明 第10-08号 改3 (更1) 性能証明発効日 : 2023年4月21日 性能証明の有効期限 : 2026年4月末日</p> <p>【取得者】 株式会社ソイエンス 株式会社建商</p>
--	---

【技術の概要】

本技術は、鋼管の端部に2枚の半円形鋼板の拡翼と掘削刃を溶接接合したものを、回転させることによって地盤中に貫入させ、これを杭状地盤補強材として利用する技術である。なお、本工法による補強地盤の鉛直支持力は、基礎底面下の地盤の支持力を無視して杭状地盤補強材の支持力のみを考慮することとしている。

【改定・更新の内容】

- 新規 : GBRC 性能証明 第10-08号 (2010年6月1日)
 改定1 : GBRC 性能証明 第10-08号 改 (2014年4月15日)
- ・補強材の仕様を追加 (軸鋼管径、先端翼径)
 - ・先端翼の厚さの見直し
 - ・適用範囲の拡大
(適用構造物の延べ面積および補強材先端付近地盤の強度インデックス)
 - ・品質管理試験方法の変更
- 改定2 : GBRC 性能証明 第10-08号 改2 (2017年4月11日)
- ・適用構造物の規模の変更
 - ・地盤調査箇所数に関する規定追加
- 改定3 : GBRC 性能証明 第10-08号 改3 (2020年4月28日)
- ・補強材仕様の削除 (軸部径 190.7 mm、翼径 300 mmの組み合わせを削除)
 - ・軸部厚さ、翼材厚さおよび溶接脚長の変更
- 更新 : GBRC 性能証明 第10-08号 改3 (更1) (2023年4月21日)

【技術開発の趣旨】

本工法は、鋼管端部の切り欠き部に2枚の半円形鋼板の先端翼を交差させて設けることで、補強材の貫入性と先端翼材の耐力の向上を意図して開発した技術である。また、補強材打設後に補強材先端部あるいは頭部を打撃するスライドウェイト S 試験 (GBRC 性能証明第10-24号) を品質管理に導入し、所定の打ち止め管理方法で問題が生じた補強材については支持力確認を行うこととしている。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、単杭状の補強材の鉛直支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「テコットパイル SR 工法 設計・製造・施工基準」に従って製造・施工された補強材の許容支持力を定める際に必要な地盤で決まる極限支持力は、同基準に定めるスクリュウウェイト貫入試験あるいは大型動的コーン貫入試験結果に基づく支持力算定式で適切に評価できる。

また、本技術については、規定された施工管理体制が適切に運用され、工法が適正に使用されている。

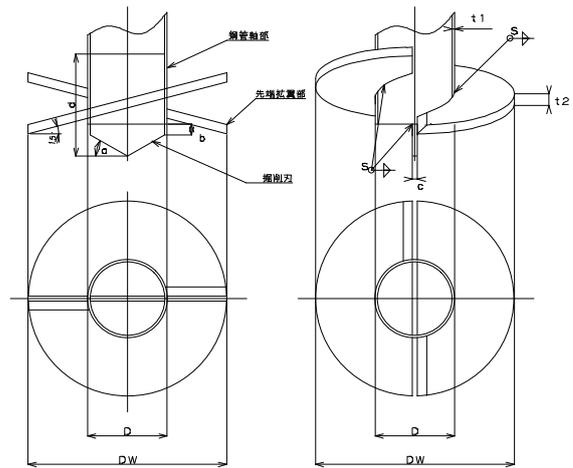


図1 補強材先端部の形状(軸部:鋼管)

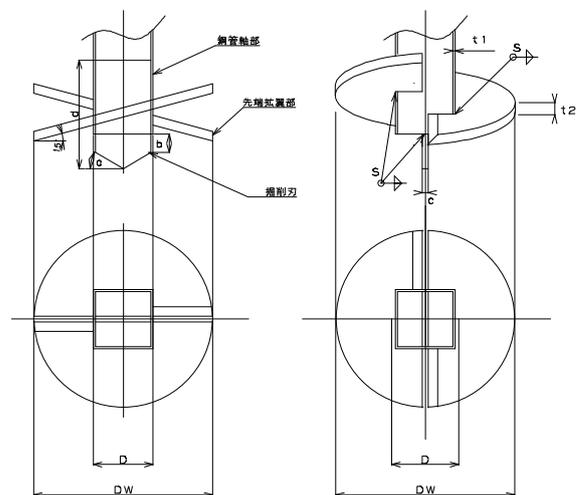


図2 補強材先端部の形状(軸部:角形鋼管)

【本技術の問合せ先】

株式会社建商 担当者: 久保 誠
 〒540-0025 大阪府大阪市中央区徳井町 2-3-13-1101

E-mail : ultrapile@tune.ocn.ne.jp
 TEL : 06-6948-5077 FAX : 06-6948-5078